第1回　関東ブロックB級審判員レベルアップ

2014.8.10　徳力小学校

講師:　斉藤　和則（茨城県）
榎本　伸行（神奈川県）
加藤　重亮（埼玉県）

今回より関東ブロックで統一していく事項

1．計時員は、オフィシャルタイムアウトでタイマーを止めたらタイムインまで手を挙げ続ける。
・まずは1年間やってみましょう、との結論。
・時間が長くなった際など、手を変えることなどは可。

2．イリーガル・キャッチ（スロー）、ダブルタッチのファールで主審が明らかに見落とした場合
確認できた副審や線審はタイムを要求して6審で協議の上で判断（判定）する。
・主審以外から、「イリーガルでは？」は無いように。「タイム要求」は、主審がブラインドで見逃し、他の審判員からは明らかにファールだと判断できるものに場合にのみ行う。

3．試合終了間際のアウトについては、まず試合終了の笛、CMへ投球の有効無効の確認。
有効の場合、アウトコール、外野への移動を促す。
理由は
・アウトコールをして時間外で無効だった場合、「セーフ」を入れる必要が出てくる。その無駄を省くため。
・選手の安全のためにも、試合終了のほうが優先順位が上。そのためにもOと同時に入れるように。

4．アウトコールした選手が気付かず投球した場合の対応
・原則、ダブルタッチを適用せず、タイムをかけてアウトコールした選手へ外野移動を促し、ボールを投げたチームの内野へ戻す。

その他実技中に受けたアドバイス

- 大きくても声が割れると聞き取りにくい。聞き取りやすい声の工夫をしてください。
- 安全確認を監督にお願いする際は、「監督（さん）！」で、「お願いします」は不要。
また、必ず監督に確認してもらうこと。監督以外はNG。
- 安全確認中で線審を呼ぶ必要がない場合は、副審とのアイコンタクトは不要。
- ファイブパスの動作は、チームに向けなくて良い。コートに正対して動作。（DVDは×）
- 相手プライヤーからの投球に対して、内野プレイヤーのイリーガルキャッチは、アウトコールが先。
続いて「ピー！、イリーガルキャッチ」、ボールの支配権。テキストP104
- アシスト不成立の場合は、ファールが先でアシスト不成立、アウト。2013中央研修会。
- ベンチバックの動作は、複数セットのセット間のみ。「ベンチバック」を言わなくて動作のみも×。
- 線審のタイム要求の動作、旗は前ではなく、上で振るように。手首は使わず、肘から振る。

B級審判員としての心構え

- 見られている意識。（態度、言葉づかい、マナー）
- 体育館の中ではダラダラせず走る
- B同士でもチェックし合う事。シャドーでイメージしながら練習すること。
- 練習試合がある場合はBが出向いて指導してあげる
- 練習試合でも手を抜かない（本番でそれが出る）
- ルールブックを活用し、ファールなどの説明を詳しくしてあげる
- ルールブックの書いている箇所を自分で探させることも大事
- 気持ちを上げる言いかたを心がける
- 審判会議は全員でしっかり話を聞く。コートマスター任せにしない。

以上